

## 指標 4.b.1

### 指標名、ターゲット及びゴール

**指標 4.b.1** 奨学金のための ODA フローの量

**ターゲット 4.b** 2020 年までに、開発途上国、特に後発開発途上国及び小島嶼開発途上国、ならびにアフリカ諸国を対象とした、職業訓練、情報通信技術（ICT）、技術・工学・科学プログラムなど、先進国及びその他の開発途上国における高等教育の奨学金の件数を全世界で大幅に増加させる。

**ゴール 4** すべての人々への、包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

### 定義及び根拠

#### ○ 定義

奨学金のための ODA 支出総額の合計

#### ○ 概念

OECD 開発援助委員会（DAC）は、ODA を、DAC・ODA 受取国・地域リストに掲載された国及び地域、並びに、国際機関に対する資金の流れのうち、次の条件を満たすものと規定している。

- i) 国及び政府の政府等の公的機関、またはその執行機関によって供与される。
- ii) 開発途上国の経済開発と福祉の促進を主目的とする。また、譲許性を有し、グラント・エレメントが 25%以上（割引率 10%で算出）。奨学金のための ODA 支出総額は、DAC の定義により援助分類コード E01。

#### ○ 根拠及び解釈

開発途上国への ODA 資金の流れの合計は、奨学金のためにドナーが開発途上国に提供する公的努力を定量化するもの。

### データソース及び収集方法

OECD/DAC は公的資金及び民間資金の流れについて、1960 年から合計額レベルで、1973 年からは Creditor Reporting System を通じた案件別レベルで、データを収集している（CRS データは、約束額は 1995 年から、支出額は 2002 年から、完全なものとは見なされている）。

ドナーによるデータの報告は、同一の基準及び手法で行われる。

データの報告は、国の行政機関（援助機関、外務省、財務省など）の統計報告者により、毎暦年ベースで行われる。

統計報告者は、各ドナー国機関におけるデータ収集に責任を負う。

この統計報告者は通常、国の援助機関、外務省、財務省などに配置されている。

### 算出方法及びその他の方法論的考察

#### ○ 算出方法

奨学金及び訓練費のための開発途上国への ODA 資金の流れの合計

#### ○ コメントと限界

Creditor Reporting System のデータは 1973 年から利用可能。ただし、案件別レベルのデータの捕捉が完全であると見なされるのは、約束額は 1995 年から、支出額は 2002 年からである。

また、この数値には奨学金のみでなく、訓練費も含まれている。さらに、部門及び研究タイプ毎の数値については集計していない。

### データの詳細集計

この指標は、ドナー、受取国、資金種別、援助分類などに分解可能。

### 参考

URL: [www.oecd.org/dac/stats](http://www.oecd.org/dac/stats)

参考: 全てのリンクはこちらから

<http://www.oecd.org/dac/stats/methodology.htm>

### データ提供府省

外務省

### 関連政策府省

文部科学省

### 担当国際機関

経済協力開発機構 (OECD)